

第6回 「日本の医療」を展望する 世界目線

～ 相対化で課題を探り、将来を見据える～

多摩大学大学院教授 真野俊樹

【中国】医療保険制度と北京の医療機関の現状(2)

解放軍301病院

中国の軍関連の病院の頂点に立つ4400床の病院だ。人民解放軍とは、中国共産党直属の軍事組織であり、中華人民共和国の軍隊である。勤務者は医療者も含め軍人。3番で始まるのは北京周辺の解放軍病院である。この病院ではPET/CT4台、PET/MRI1台を導入しており、高度医療も行っている。がんについては、がんセンター(写真①)を作っている。医師の数も多く、主任以上の医師は壁に名前と写真が飾ってあり、このようなパネルが2枚ある。混雑ぶりも半端ではなく、筆者は実際に「診察券」を売ろうとしている中国人から声を掛けられた。

SOSインターナショナルクリニック

SOSインターナショナル社(以下、SOS社)はフランス人医師が創業し、医療搬送やクリニック経営などを展開、旅行中や赴任中のビジネスマンの健康を守る企業



写真①: 解放軍301病院のがんセンター

である。従業員は約1万1000人(うち常勤医師は約1400人)と大所帯だ。

創業者のパスカル・レイハム医師は仏ソルボンヌ大学メディカルスクール卒業後、SAMU(フランスの一次救急支援組織)でパリ空港の救急医として救急医療の経験を積んだ後、在インドネシア・フランス大使館の医務官、フランス人向け医療コンサルタントを歴任。1985年に、経営者のアーノルド・ヴェシエ氏とともにSOS社を設立した。

医療搬送では、特殊な搬送器具(感染防止用)や搬送用のジェット機を自社で持つ。会員制で、会員の旅行中や海外赴任中の医療需要に対して24時間体制で対応している。SOS社は世界各地でクリニックを展開しており、中国最大規模のクリニックが北京のSOSインターナショナルクリニック(写真②)だ。北京以外のクリニックは重装備ではないというが、同クリニックはレントゲン施設や医院間搬送のための救急車を所有し、救急室も重装備だった。

中西医结合医院

中医と西洋医学の両方を行っている150床の2級



写真②: 設備が充実しているSOSインターナショナルクリニック

甲の病院(写真③)。CT、MRIも1台ずつ所有している。公的な病院ではなく、非営利の私的病院である。そのためなのか、医療保険での支払いが認められるまでに時間が掛かったという。中国の場合、営利病院(株式会社病院)は価格を自由に決め、中国政府の医療保険を使わない、非営利病院は保険医療と自由診療の両方を行うが、保険診療では決められた値段で行うということになっている。

この病院は産婦人科と大腸肛門科が得意で、健診部門も充実している。中医と西洋医学の患者は半々であり、3分の1から4分の1は保険診療ではないという。民間病院らしく、基本的な医療と富裕層向けの医療を両方行いたいということで、健診の最高値段は1万元(約20万円)とのことであった。

さらに、老人ホームを併設した。中国の老人ホームは、巨大な集合住宅群を作るタイプだと空室が多いために、医療機関併設型が増えているという。この老人ホームでは食事付きで月6000元をベースに個室、2人部屋、3人部屋で追加料金が異なる。なお、在宅医療については、あくまで必要に応じて医師や看護師が往診するという、日本でいう「往診」の段階である。

東城区民養老年公寓

北京中心部の天安門広場がある辺りを東城区というが、その区民のための施設(写真④)が朝陽区に作られている。東城区民以外の方も入所されているようであった。費用は3人部屋で月に2000元という。ここに介護や食事のサービスを付けると、



写真③: 中医と西洋医学の両方を行っている中西医结合医院

5000~6000元(約10万~12万円)になる。1人部屋では9000~10000元だった。入居者は引退した公務員が多かった。理由は政府の官僚の年金は5000~8000元(企業はこの半分くらい)と高く、さらにマンションを保有している人が多いために、引越時に当たりそのマンションを貸し出して賃貸収入を得ているとのことで、今までお金が払えなくなって退去した人はいないという。

中西医结合医院と同じように、2級甲の病院(1Fと5F)と施設(2Fと3F)が併設されている。病院に勤務する神経内科の女性医師にヒアリングを行った。リハビリルームはあるし、リハビリ治療士(日本のOTとPTを合わせたような資格)も2人勤務しているが、そもそもリハビリについての専門機能分化はまだままだであるとのことであった。

ちなみに、この病院は東城区にある400床の病院の分院という位置付けであり、まだ珍しい訪問医療も行っているということだった。看護師が検査のみに行く場合と、医師と看護師が診察や治療に行く場合があり、アフターサービスの位置付けという。ただし、3級の病院では訪問医療は行わないとのことだった。

まとめ

中国の医療についての評価は難しい。高齢化する人数が非常に多いので、日本のやり方が中国に適するかどうか分からないからである。しかし、言えることは日本に医療や健診を受けにくる人は今後ますます増加するであろうということである。



写真④: 病院と施設を併設した東城区民養老年公寓